

アクティブハイスクール支援事業

総合的な学習の時間を活用した調べ学習

～ 職業別研究・分野別研究による1・2年合同発表会 ～

(1) 本企画の目的

生徒1人1人に各自の将来を真剣に考えさせ、進路研究に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけさせる。

グループで調査・研究することで協調性やコミュニケーション能力を養うとともに、研究結果をわかりやすくまとめて発表するプレゼンテーション能力を育成する。

(2) これまでの経緯

平成19年度より「総合的な学習の時間」を3年間を見通したキャリア教育の一環として位置づけ、学年末の2月に普通科1年・2年の合同発表会を開催している。平成15年度に「総合的な学習の時間」が導入され、数年の間はその有効な使い方について試行錯誤が続いていたが、一昨年より学年末にあるこの行事のおかげで総合学習の時間がとても充実してきたと言える。1年生は、クラスごとに「職業別研究」を深め、調べ学習と発表の基礎を身につけた。2年生は、学年全体を8つの分野に分け、より自分の進路に近い分野を各自で選び「分野別研究」を深めた。今年度は、1・2年生から実行委員を募り、合同発表会の企画運営を担当した。

もともと本校には非常に素直で、真面目な生徒が多い。この企画は生徒の進路保障に役立つコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力の育成を目的に始まったが、行事を通して、生徒たちが自主的に動き、考え、悩み、問題を解決していく姿が見えてきた。準備段階での指導は大変ではあるが、生徒たちが場数を踏むごとに逞しく、確実に成長していくのを実感する。また、3年生になるまでに点数だけではわからない、生徒の潜在的な能力を引き出すとても良い機会となっているのではないだろうか。AO入試や推薦入試の重要性が増す昨今、自分の考えをしっかりと持ち、発表できる能力を身につけた生徒の育成はますます重要になってくるであろう。

(3) 合同発表会概要

選抜代表チームは、勝山文化センターを会場に普通科1・2年全員の前で発表した。発表会は募った実行委員会の企画運営にすべて任せ、生徒による楽しい司会進行のもと、和やかな雰囲気の中で盛り上がった。右は、2年生の部で最優秀賞となった「添加物」をテーマに取り上げたグループである。身近なプレスハムなどを題材に添加物の功罪について焦点を当てた。発表の仕方にも小物を用意するなど、工夫が見られた。





右は、1年生の部で最優秀賞となった「DNA鑑定」をテーマに取り上げたグループである。話題の「足利事件」も取り上げ、DNA鑑定の有用性と限界について発表した。

(4) 指導講評

本年度の指導講評は、昨年に引き続き、東京大学の安藤理(あんど う さとる)先生にお願いした。全ての発表が終了後、指導講評をしていただいた。さらに「「問い」(Research Question)の立て方」のタイトルで生徒にわかりやすく講義していただいた。「たしかに規範的には～だ」、「しかし実態は～となっていない」、「なぜ～となっていないのか」という問題意識を持つためのフォーマットや、総合的な学習が日常の教科・科目や部活動などとの関わりにどう有用なのかを具体的に説明していただき、生徒にとってとても身近で役立つものであった。生徒たちにも大変好評であった。



安藤理(あんど う さとる)先生 (略歴)

東京大学法学部卒。東京大学社会科学研究所学術支援専門職員。教育社会学専攻。
 主著：『教育改革を評価する～犬山市教育委員会の挑戦～』岩波ブックレット

(5) 生徒アンケート

クラス発表会、学年発表会、合同発表会と同じ発表を繰り返し見ている者でも、次第に発表の完成度が高まっていく様子に感動していた。また、1年生の多くが2年生の発表内容の深さや完成度に驚き、来年への意欲がわいたという意見も多く出た。

	1年生の部	2年生の部
とても良かった	38%	63%
良かった	56%	34%
特になし	6%	3%
悪かった	0%	0%

平成21年度「総合的な学習の時間」への取り組みについて【第二学年】

9月末に普通科生徒117名を集めて「総合学習」の目的と今後の日程を説明した。生徒は「環境・生活、情報・工、自然・生物、教育、文化・外国語・人間、医療・福祉・保健、社会・経済・法、芸術・文化・スポーツ」の8分野から自分の進路に関わっていたり、興味関心のあるものを各自の研究分野として選択した。この時点で将来の進路に関して漠然としていた生徒も、しっかり考えさせ、いずれかの分野に所属した。各分野ごとに指導教官についていただき、同じ分野の中でさらに少人数のグループに分かれ、各自の研究テーマを考えた。11月末には2つの分野合同の4会場で中間発表を行った。同じ分野の発表や他分野の発表を見聞きし、角度の違う視点や、観点の違う見方を体感した。

冬休みの課題として各自の研究分野で関係する記事や情報を新聞、インターネット、書籍から集め、研究を深めさせた。

インターネット(情報教室)、新聞および図書館などを利用して「研究テーマ」について調査研究し、パワーポイントを使ってまとめ、発表の準備練習をした。

各分野ごとに優秀なチーム選び、8分野の代表からさらに5チームの選抜代表を学年全体で選んだ。

選抜代表チームは本番にむけて、内容をさらに充実させるために何回も話し合い、発表練習をした。

代表以外の1,2年生生徒の中から実行委員を募り、合同発表会当日までの企画運営準備を行った。自分たちで会議をし、企画を練り、渉外をし、準備を重ねていった。

選抜代表チームは、勝山文化センターを会場に普通科1・2年全員の前で発表した。生徒による楽しい司会進行のもと、和やかな雰囲気の中で盛り上がった。



(4) 検証と課題

合同発表会に対する生徒たちの取り組みの姿勢は非常に良く、放課後も残って情報教室でインターネットやパワーポイントを使う姿が多く見られた。発表会終了後のアンケートを見ると、発表に取り組んだ生徒はもちろん聴衆として見学した生徒たちも今回の発表内容のレベルの高さと堂々とした態度に大変刺激を受けたようだった。

2年生では、自分の進路について深く考え進めることが目的であったが、自分の選んだ分野が今回の調査研究によって、結局憧れだけで自分の本当にやりたいことは別にあることに気づいた生徒もいた。そういう意味においても2年次までにこの体験をさせることは非常に意味があることだと思う。ただ、放課後の時間の使い方は部活動との両立が難しく、生徒たちの一生懸命な態度を支えるためにもこの企画のあり方と計画性についてさらに考察が必要である。

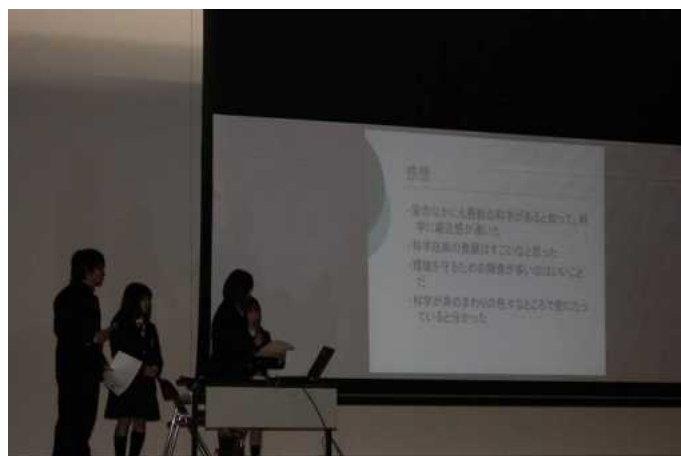
平成21年度「総合的な学習の時間」への取り組みについて【第一学年】

1学期の総合学習では、大学入試の仕組み、大学、学部調べを中心に行った。また、宿泊研修時には、ビデオで卒業生の講演を視聴し、教育実習の期間には実習生の方々に講演をしてもらうなど、意識付けを主体にしている。

夏期補習中に職業調べを行った。冊子やインターネットなどを使わせ、自分の興味がある職業について調べさせ、それを報告書の形式でまとめさせた。仕事内容だけでなく、その職業の社会的意義や現在の問題点をまとめさせた。

9月～11月は職業調べを題材に「ポスタープレゼン」を行った。夏期補習中に作成した「職業調べ報告書」を返却し、その職業により9～10のグループに分け、調査する職業を決定し、調べた内容を2枚の模造紙にまとめ各クラスで発表するという内容である。クラス発表の時期に新型インフルエンザが流行し、計画通りとは行かなかったが、各グループは公務員、ディズニーランドスタッフ、保育士など工夫を凝らした発表を行った。

12月からは2月に行われる合同発表会に向けて、職業(テーマ)調べを行った。昨年度の発表の様子を見て、意識を盛り上げ、自分が調べたいことを調査し、その調査をもとに9～10のグループ分けを行った。2学期期末考査以降に調査内容のスタートを切った。2学期期末考査以降に情報Bの授業とも連動し、各グループで本格的に調査を行った。1月にはクラス発表会を行い、クラス代表を各クラス3グループ選出し、さらに学年発表会を行い、合同発表会の代表グループを3グループ選出した。



まとめ

「高校生になる」取り組み

宿泊研修での先輩の講話や高校での学習の仕方の学び、高校卒業後への進路意識の涵養など、中学生から高校生になる取組をさらに一層進めていかなければならない。

一年間を通しての計画

年度の終わりに向けて大きな場が設けられていることは一つの目標となり、生徒への意識付けは行いやすい。一年間の流れの中で調べ学習を繰り返し行うことで、生徒の知識はより深まり広がっていくはずであり、よりよい進路実現の一助になるであろう。